学校だより

# 翔　　空

№２７　平成２４年１０月１６日（火）
郡山市立喜久田中学校長　大堀　昌弘

「翔空（しょうくう）」の由来　〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚（ふうこうめいび）なこの学舎（まなびや）から、希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

## ［バザーご協力願います］

今週火曜日（１６日）から３日間にわたり集めるバザー。昨年度は、その数多数！売れ残るほどの数が集まりました。

文化祭前日までには各委員会の準備があり、バザー担当者による値付けなども行います。何卒、昨年度以上のご協力をお願いします。あとは当日の天候を祈るばかりです。私の場合、前任校では、行事ある毎に７割の確率で晴天ではありましたが、昨年度は雨。果たして今年度は、・・・。

## 【いろはがるた　③】

今回の**いろはがるた**は、

**「身から出たさび」**

わが身の過ちから起きたことは、恨んだり、悔やんだりはできないという意味です。

なお、私の手元にある解釈付習字読本「以呂波歌留多」という昔風の絵付きの本では、さらに次のような解説が続いています。「刀剣は、ほっておくと錆びるので手入れをしないといけない。なお、上方では、『身は身で通る裸ん坊』となります。その意味するところは、人は、それぞれの才能や境遇に応じて、よければよいなりに、悪ければ悪いなりに、なんとか世渡りができるものであるということ。」

お互い頑張ろうね。合唱や学年の出し物楽しみにしていますよ！生徒会の寸劇や引継ぎも期待しています。

◇　朝から各学級の合唱の練習の歌声が響いています。「歌声が聞こえ、小鳥のさえずりも聞こえる学校」　いいですね！

# 「わが校の文化祭前に考える」

## ～翔空祭開会式の挨拶文を書いていてふと思う～

**みなさんにとって、**あの大震災後の事は、今現在どのように思い起こされますか。今日は１０月１６日（火曜日）です。時の流れは早いもので、あの恐ろしい震災が起きてもう１年７ヶ月（５７０日以上）が経ちました。しかし、私たち郡山市に住む者を含め多くの人は、いまだ放射線被害の真っ只中にあります。

手元に、震災およそ１ヶ月後、つまり、昨年４月初旬頃の新聞から拾った記事があります。生々しく当時の出来事を思い出してみましょう。

３月１１日午後２時４６分に起きた大地震。マグニチュード９．０、震度７強とされ、スマトラ沖の大地震（マグニチュード９．１）に次ぐものと言われています。〔１９００年以降の地震では４番目〕いわゆる「激甚災害」に指定され、「国際的災害支援」（民・官両方に対して１３０近くの国及び地域から）を受けながら復興を目指しています。地震からほぼ１ヶ月が経ち、津波、余震、原発事故等の影響もあり、特に福島県は三重の被害を受け、未だ行方不明者の安否を確認することさえできない地域もあります。

今回、新聞等によるさまざまな報道によると、

- 原発事故は、チェルノブイリ事故ほどではないが、スリーマイルでの事故より数段重い。
- 東北地方の学校およそ１８０校が建て直しを余儀なくされている。
- 全国各地から多くの善意の義援金が寄せられている。
- 被災者において、「仕事がない」「内定を取り消された」などの悲嘆の声が聞かれる。
- 「地元の復興に燃える新入役場職員」（岩手県）
- 「見知らぬ土地への転校を余儀なくされた子どもたち」（福島県）
- 未だ安否が確認できないでいる原発地域の多くの行方不明者。
- ガソリン不足で一時１５９円（レギュラー）の最高値。
- 被災地の松島マリンピアでペンギンの赤ちゃん誕生。４月２０日には、水族館を再開。
- 奥松島近くの海底では、陸地が５０ｍ以上移動。

**今思い起こしても、**本当に悲惨な状況でした。そして、いまだに帰郷できない多くの被災者が存在していることは大変遺憾でなりません。

**ところで、**過日（１０月１４日）会津若松市において、ＰＴＡ県大会が実施され、およそ１３００人の会員の方々がお集まりになりました。昼食時に市内５校の合同合唱部によるＮＨＫ合唱曲「ファイト」の演奏や一箕中剣舞部による白虎隊の舞などが披露され、観客を大いになごませてくれました。また、午後の講演は、杏林大学教授（言語学者）の金田一秀穂氏による９０分笑いっぱなしの大変有意義なお話などもあり、行楽の秋の一日を楽しく過ごすことができました。コミュニケーションの大切さを具体的な例をもとにお話いただき感銘を受けて帰って来ました。機会がありましたら、ご紹介させていただきたいと思います。（なお、会の進行の中においては、当然のことながら、今回の震災への取り組みが多数紹介されました。）

**〈カウントダウン：翔空祭、あと４日となりました！〉**